

大会開催記

えんずいところにスマッシュ実行委員会

代表 江戸 正人

『3.11』という表現で世界的にも知られる未曾有の大災害から1年5カ月が過ぎた2012年8月12日(日)、被災地の一つである陸前高田市の市立第一中学校で「第2回えんずいところにスマッシュ!!ピンぼーん大会」を開催しました。前回に引き続き、地元の陸前高田市、大船渡市の両卓球協会のみなさまのご尽力のもと63選手とギャラリー、大会事務局関係者合計約100名が集い、勝ち負けではなくピンポンを楽しんで頂き、初心者向けにも講習会を併催するなど被災地のみなさまに少しでも元気になって頂こうという大会理念と、「祭り」の要素も盛り込んでの「かき氷プリーズ」を継続実施するなど、卓球大会とは一味違った卓球イベントとして無事に終了できました。

特に、このイベントにはご参加いただけなくても、全国15名の方々から20万円を超える義援金を頂きましたことと、加えて日本卓球(株)、ヤマト卓球(株)両協賛企業からは、大会用品、参加賞をはじめとする物的ご支援のほか、指導コーチとしても人材を現地に派遣頂き、営利ではなくCSRの一環としてご支援いただいたことで、資金難に陥ることもなく開催できましたことは、この大会の理念にご協力、ご協賛いただいたみなさまのお蔭と感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

簡単ではありますが、ここに大会開催記として感謝の気持ちを込めて、報告をいたします。

1. 祭りの始まり

13時30分からの開会式では、昨年同様、大災害でお亡くなりになった方々への黙祷を行いました。会場の前のグラウンドは仮設住宅が100世帯以上あり、まだまだ日々の暮らしも大変な中、ご参加いただいたみなさまの笑顔の素敵さに救われました。⇒開会式の模様は「大会フォト」参照

- ・前回同様、受付で抽選籤を引いて頂き、63名を2,3人で1チームとし、全8ブロックに編成
- ・各ブロック3チーム総当たり方式の予選リーグが14時開始。⇒熱戦の模様は「大会フォト」参照
- ・今回も『えんずい大会』特別ルールを採用し、初心者対経験者の試合は初心者に4点ハンディ有
- ・予選リーグの熱戦をクールダウンすべく、並行して「かき氷プリーズ」も実施。お祭りの始まり!



[開会式での記念撮影]



[予選リーグ]

2. 決勝トーナメント

予選リーグ各ブロックから上位 2 チームが決勝トーナメントへ進出しました。籤運頼みのチーム編成なので、1 勝 1 敗で 3 チームが並ぶいわゆる「三すくみ」が続出するかと予想していたのですが、結果は皆無。籤運の強いチームと弱いチームがあったようで、この点は改善が必要と思います。

- ・予選リーグ、決勝トーナメントの戦績について ⇒ 「大会結果」参照
- ・籤でのチーム編成とはいえ、ベスト 4 の両試合はとても素晴らしい内容でした。特に、「村上・千葉チーム(村上選手、千葉選手)」 v.s. 「ピンポンクラブ(金野選手、坂本選手)」の試合は、『奇跡の優勝』と讃えられる昨夏のインターハイ県予選の高高優勝メンバーの村上選手と金野選手が直接対決するという好カードもあり、会場の視線を集めました。第一試合のダブルスは、両選手の意地と意地ががっぷり四つ 18-16、12-10 でピンポンクラブが先制するも、続く 2 つのシングルスは村上選手、千葉選手がそれぞれストレートで取り返し、逆転勝利を飾り決勝進出。
- ・決勝戦でも、勢いがある村上・千葉チームが「大船渡一中」に 2-1 で勝利し、優勝しました。



[決勝トーナメント2回戦 村上・千葉チーム v.s. TEAM O・Y (手前)]



[準決勝 村上・千葉チーム v.s. ピンポンクラブ
「奇跡の優勝」の高高 OB 対決 村上(奥) v.s.金野]

3. かき氷プリーズ

前回大会の事務局会議のときから、ある意味一番力を入れた企画が、かき氷を振舞いたいというお祭りの実施でした。今回も、参加者はもとより仮設住宅で暮らしているみなさまにも振舞いたいとの気持ちで実施しました。

前回同様、事務局から平賀隊長をリーダーに初参加の須磨岡さん(左側の写真)のほか、江戸と同じ会社に勤務する女性社員 3 名(右側の写真)が応援を申し出てくれまして、急遽、「かき氷プリーズ隊」を結成しました。地元のちびっこ達との交流は、今年も逆にこちらが癒されました。



4. 卓球講習会

初心者のみなさま、予選リーグで敗退された方々を中心にコーチによる卓球講習会も開催しました。今回のコーチングスタッフは、ニッタクさんから森田さん、吉田さんの若手社員お二人ですが、吉田さんは陸前高田市米崎町のご出身であり、今回は後輩たちへの指導にもなりました。TSP さんからは庄司さんがコーチとしてご参加いただきましたが、隣県秋田県(秋田商業高校)ご出身で、東北復興には特別な想いをお持ちの方です。

さらに陸前高田市卓球協会からの推薦で、奇跡の優勝高田高校 OB4 選手はじめ、高田一中 OB で元中学県チャンピオンの後藤さんも指導に参加いただき、ちびっこ達にも大人気でした。



【陸前高田市ご出身の吉田コーチ】



【隣県秋田県ご出身の庄司コーチ】

5. 結びに代えて ～ 人と人の絆に感謝した大会でした ～

最後に、私的な想いも込めて大会開催後記をお届けすることをお赦しいただきたいと思います。

3.11 の大津波により、高田一中時代の同級生 13 人が犠牲になりました。まだ、48 歳の若さでした。今年 4 月 29 日に高田一中の同級生 90 名が集い、亡き旧友の慰霊式を執り行いました。地元で暮らす同級生の中には、仮設住宅での暮らしを余儀なくされている方もおり、復興どころかまだまだ復旧自体が遅れている故郷を実感しました。偲ぶ会の後、卓球部員だった千葉茂君から“江戸ちゃん、今年もびんぼん大会やってよお”とのリクエストを頂きました。千葉君も奥様と仮設住宅に暮らしており、大津波発生時は消防団員として正に命をかけて救助活動にあっていた方です。この一言が、今大会の実施を決定付けました。当時、6年に亘る名古屋での勤務から4月の異動で東京勤務になったばかりであり、仕事に忙殺され、『えんずい大会』を企画する余裕がない時期でしたが、故郷の状況と、同級生からの一言は大きな力を与えてくれました。

イベントの運営は、独りでは不可能です。今回も都内の倶楽部チームから卓球仲間がボランティアで事務局に参画いただき、企画、印刷物の作成、大会までの準備等大変なご尽力を頂きました。また、地元の両協会のみなさまの献身的なアシスト、協賛各社からの人的・物的なご支援、全国から寄せられた義援金、そして何より大会は、参加選手がいなければ成り立ちません。お盆の時期に 63 選手が集い、老若男女が怪我もなく純粋に「びんぼん」を楽しんでくださり、かき氷でお祭り気分を感じて頂いたことは、この大会が人と人の絆の大切さをあらためて感じさせてくれたという意義においても、盛会だったと思います。みなさまのご協力に感謝です。

ところで、イベント前日は我が両親の一周忌法要でした。故郷のほとんどの方々が、大切な人を何人か亡くしています。全員無事だったという家の方が稀だと思います。今回、親戚が撮っていてくれた、在りし日の我が実家の写真がみつかりました。早速、千葉・市川市の拙宅に飾っています。「あの日」までは、普通の暮らしが

あった町でした。今後の復旧・復興への道のりを考えると、毎日、自分に何が出来るかを自問せざるを得ませんが、言えることは、できることから少しずつ手伝っていこうということです。先の千葉君からは、大会後感謝のメールを頂きました。この大会も少しは役に立っているのではないかと、人と人の絆に感謝の気持ちで一杯になる大会であったと思います。ありがとうございました。



[高田一中同級生チーム『半世紀の男』]



[35年ぶりの公式戦 千葉茂君]

在りし日の江戸の実家です。
両親はうどん屋を営んでいました。
普通の生活がいかに大切か、
震災後、常に感じています。
みなさまも大切な人は、本当に
大切になさってください。

人と人との絆に感謝です。

江戸 正人



地元のちびっこ作の
氷の芸術 癒されます。

